



便り

ハメを外す

生まれてこの方ハメ込まれていた箍(こ)子(こ)母(はは)、嫁(よめ)、姑(おば)。八十の坂を超え、やっと一人になりハメが外れた。頭に何もつかず固有名詞での生活はスツキリしている。自分のためだけに生きていくこの自由は何者にも代えがたく幸せである。(名華女)

キユツと締めてた帯を解くと、何ともいえない解放感を味わう。いつ解かれるのかわからないと辛い。先の見えないコロナ禍の非常事態。こんな時にテレビの旅番組で「ぜひお出かけください」と放送して。出かけたくなる！思いつきりハメを外して解放感を味わいたくなる〜！妙な違和感を感じる私です。(すみちゃん)

それは、10代までは許される行為である事が多いのだろう。成人後は度を越すと事件となったり、酔った勢いで冗談のつもりがハラスメントとして訴えられたりする。分別ある大人はしない方がいい。そう思うと小学2年生の時、教室内ボール遊びに興じて先生の机下の扉を壊してしまったのが懐かし〜もある。(はつ)

ハメの外し方も度を過ぎると非難を浴びる。携帯なんて無い頃は、証拠は残りなかつたから、怒られることはあったけど「ハメを外しすぎたな」ですんだ。今は、わざわざ証拠を残し、面白おかしく大勢の人に晒し、非難を浴びる。仲間内なら苦笑いで済むものを…。証拠の残らない時代に若者をしていてよかったです。(チャーミー)



No.66

△ハモーン博士のまとめ

今の時節柄、ハメを外す機会はほとんどないし、そんな行動を見る世の中の目も厳しい。こんな時代が長く続くと、ハメの外し方を知らない若者が増えるんじゃないかと心配じゃ。「ハメの外し方」の教科書はないから、外し方の度合い、周囲の顔色や状況、いろいろ経験しつつ覚えていくもんじゃない。早く、世間に迷惑をかけないハメの外し方が実践し学ぶ時が来るとよいな。



問合せ
大口町NPO登録団体ハモーン
☎95-1691

Be Ambitious vol.328

町内にお住まいの 20代の皆さんがリレーで登場!

得意分野で医療に携わる

伊藤 祐貴さん(上小口) H9・11月生



システムエンジニアとして 検体検査のシステム開発会社に勤め4年目となります。 父や祖父をはじめ親族に医療関係者が多く医療の道への意識はありましたが、興味があったのはパソコンを触ること。専門学校でプログラミングを学び、好きなことで医療に携わる道へ進みました。

休日には道の駅めぐり

ドライブがてら、道の駅をめぐる事にハマっています。1番の目的はスタンプラリー。多いときには岐阜県で1日6件まわりました。もちろん各地の名産品も楽しみのひとつ。静岡の伊東では海鮮丼がすごいボリュームで美味しかったです。また長野の美ヶ原高原の景色は最高でした。ひとりで気ままなドライブが良いリフレッシュになっています。



▲道の駅「伊東マリントウン」にて。

ひとつのミスが検査結果に影響すると大きな医療事故につながってしまうことを意識 忙しいも報われます。